

橋本一男

単純思考の設計図

ブラザーで学んだ私の実践的経営論

単純思考の設計図

単純思考の
設計図

橋本一男

東愛舎

まえがき

自分史をまとめてみたいと思いついて二、三年になる。私の現役時代の折々のメモが、手帳や記録帖や大学ノートに雑然と記録されていたり、人様から頂いた励ましの手紙などが残っていたりして「さて、どうしたものか」と思案していたのが発端であった。

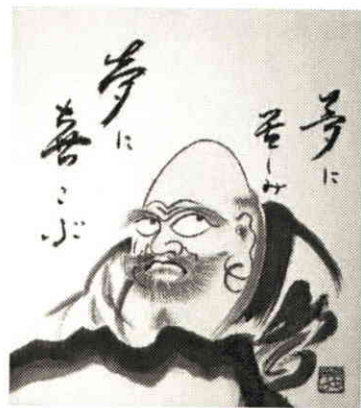
それでも「自分史」として、まとめることには、心の奥にかなりの抵抗があつて、長く躊躇していた。それが、ある会合で口にしてから「迷い」が吹っ切れ、自分史には違いないが、むしろ経験からの実務書として捉えることをしてゆけば、もっと積極的に取り組めるはずだと考え直した。ちょうど一年ほど前のことであつた。

ブラザーでの四十三年間、実にさまざまな実務経験をさせてもらった。年と共に責任ある立場を任せられ、節目節目では多くの方に助けられ、学んだ教訓は数知れず多い。世代も変わり、人々の意識も変わったとはいえ、人は何に心を躍らせ、どこに魅せられるのか。おそらくこの原理は普遍であるう。ビジネスの原点が、人と人の繋がりにあることを考えたとき、この視点から半生を振り返るのも意義があると考えた。

企業環境が好転しているといっても、努力なくして進展は有り得ない。経営には常に「自



著者近影



己革新」が付きまとう。逆境にあるときだろうが、順境のときだろうが関係ない。他から触発され、刺激を受け、あらん限りの知恵を絞り、組織の結束力を最大に求めていく姿勢、これを理想の姿とすれば、自己評価してみるのも無駄ではない。

自分の思いの表現は、あまりにも稚拙で意を尽くせないが、その一端でも感じとって頂ければ光栄だ。この書がもとで、若い人たちと語り合う機会に恵まれれば、私の夢はさらに叶えられる。

私にとって人生最初のまとまった書物を、これまで共に歩んでくれた妻に謹んで捧げた。